

とにかく、考えて、考えて、考え抜くしかない

一般社団法人アーネスト育成財団
理事長 西河洋一

『西河経営哲学』の中に「企業において「お金」は、人間の血液。いかなる時も、数字の変化に気付き、危機に対応できる力を養う。経験により学ぶことが求められる」とある。

先日の講演で「資金繰りが上手くいかなかった時は、どうすればいいのか」と問われたとき、「とにかく、考えて、考えて、考え抜くしかない」と答えた。アーネストワンの前進の会社の社長になったとき、社員 10 人で債務超過 12 億円の会社であった。1 人 1 億円以上借金があった。簡単には返済できない。利益を出して、剰余金が 1 億以上出さなければ借金はゼロにならない。

色々なことを考えて本当に突き詰めたら、神様が降りてくる。だから、一生懸命悩んで、悩んで、悩んだらいいと思う。筆者の場合は、百万円で一億円を儲ける手法を自分で考えて、剰余金が出るビジネスモデルを編み出し、それがうまくいった。

成長戦略は、回転率を高くし、利益率を上げる。経営の真髄は、スピードである。スピードを上げて会社を大きく成長させる。資金をいかに増やしていくかが、経営の真髄になる。

会社をコントロールするのは社長である。投資の指針や、やり方も社長で変わる。社長在任中に会社を成長させたときは、毎年社員が百人増えて、大体十店舗増えてという取り組みを十数年やってきた。社長が最終的な決断を下す。頭で考えて伸ばしたいなら伸ばす戦略に取り組む。

普通の会社は、時代の流れとか、そのときの流れに任せて仕事をしているだけで、明確に目標設定をしていない。しっかり目標をきちんと文字にして社員に見せる。社員はそれに基づいて自分のやるべき仕事を考える。社員全員が自分の能力と照らし合わせて考えながら会社をみんなで動かすことが、重要だと思う。その辺が経営のコツである。

会社を伸ばすためには、人・モノ・金・情報・時間、これが全て増えていかなければならない。その一つが欠けても会社は成長できない。全てバランスよく発展できるようなことを社長は考え、それをみんなに伝える。皆は自分でやるべきことを一生懸命考えるようになる。すると大きくなるし、立派な会社になる。